

平成 25 年度 春期 システム監査技術者試験 解答例

午後 I 試験

問 1

出題趣旨	
<p>ビジネスの変化に対して迅速かつ柔軟に対応することを目的として、アジャイル開発を採用する組織が増えている。しかし、“コスト削減”や“短期開発”，“ドキュメントを作成しない”といった観点だけに着目して開発を進めると、かえってコストが増大したり、納期をオーバーしたりするなどの問題が発生する場合もある。</p> <p>本問では、システム監査人として、アジャイル開発の特徴や留意点を理解し、リスクを見極め、必要なコントロールを抽出し、開発プロジェクトを監査する能力があるかどうかを問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	(1) スコープ外の要求まで取り込んでしまうリスク	
	(2) 調査に工数が掛かり、障害への迅速な対応ができないリスク	
設問 2	イテレーションの進め方を評価し、次回に反映すること	
設問 3	システム部の T 氏がプロセスオーナーだと、業務の要件や優先順位を的確に判断し意思決定できないから	
設問 4	(1) ツールの使用方法を参加メンバに周知する場が設けられているか	
	(2) 事前に決められたルールに従って成果物が作成されているかどうかを確認する。	

問 2

出題趣旨	
<p>病院は、多種多様な専門職が所属する多くの部門から構成される。各部門は業務に特化したシステムを使用し、各システムは、電子カルテシステムを中心に、処理及び情報共有を行う。病院業務を支えるシステムは無停止稼働が求められており、エラー又は障害が、患者の生命や健康に損害をもたらすこともある。</p> <p>本問では、このようにエラーや障害に対する厳格な対応が求められる電子カルテシステムの運用を例にして、システム運用に伴って発生するリスクの種類や程度に応じたコントロール、発見事項を裏付ける監査証拠、及びシステム監査人による判断の根拠を識別する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーザ ID 及びパスワードの管理が適切で、なりすましの可能性がないこと</li> <li>・調査の対象となる操作ログが全てそろっており、改ざんが行われていないこと</li> </ul>	
設問 2	自動確定前に、医師へ承認及び確定操作を促す通知を表示する機能	
設問 3	(1) 異なるバージョンで作成されたバックアップデータを参照するテストが行われていないから	
	(2) 適切な時間内に遠隔地のバックアップデータを入手し書面化するテストが行われていないから	
設問 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手書き伝票で運用を代替した場合の業務負荷の増加分が検証されていないから</li> <li>・手書き伝票起票後の各部門システムとの連携方法が検証されていないから</li> </ul>	

### 問3

出題趣旨	
<p>情報システム開発、各種コンサルティングなどの企業においては、顧客から受注した案件単位でのプロジェクトとして業務が遂行されることが多い。</p> <p>それぞれのプロジェクトの目標達成のためのプロジェクトマネジメントは当然のことながら必要だが、同時に、プロジェクトの売上、原価及び損益を正しく把握することも、企業経営における重要な課題となる。</p> <p>本問は、このような企業におけるプロジェクト会計を管理するシステムについて、必要な観点を理解して監査する能力を確かめることを狙いとしている。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	(1) 顧客から正式な注文が得られず、損益が悪化するリスク	
	(2) 仮発番から2週間を過ぎると警告が表示される機能	
設問2	プロジェクト管理者が入力された作業時間を承認していないから	
設問3	(1) 業績評価を良くするため、プロジェクト管理者が作業時間を過少に入力させることがあるから	
	(2) 作業実績管理サブシステムの作業時間と勤怠管理システムでの実働時間を突合する。	
設問4	プロジェクト管理者の入力内容をプロジェクト責任者が承認する機能	

### 問4

出題趣旨	
<p>業務プロセスは、必ずしも一つのシステムだけがサポートしているわけではなく、複数のシステムが連携してサポートしていることが多い。このような状況では、個々のシステム単位で監査を行うのではなく、システムの関連性や複数のシステムを一体として監査しなければリスクを適切に評価できない。</p> <p>本問は、このような、複数システムの連携に着眼して監査を効果的に実施できる能力や経験を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	規程は概括的で、担当者によって妥当性の判断に差異が生じる可能性があるから	
設問2	他システムの権限を含めて検討すると、職務分離が適切でない可能性があるから	
設問3	出荷実績データの正確性及び網羅性を保証するために、出荷指示データとマッチングする。	
設問4	出力されたエラーデータが、全て会計システムに入力されているか確かめる。	
設問5	月末において請求データが作成されていない当月の売上データ	